



# 工化時報

第35号



Since 1938

本郷通り側から臨むタワー・スコラと解体中の5号館



18	建築学科
17	機械工学科
16	機械工学科 電気工学科
15	電気工学科
14	数学科
13	まちづくり工学科 数学科
12	教室 まちづくり工学科 不動産科学専攻
11	土木工学科 一般教育
10	土木工学科
09	建築学科
08	建築学科
07	建築学科
06	教室 建築学専攻 建築学専攻 建築学専攻 建築学専攻
05	教室 コンピュータ演習室
04	教室
03	教室
02	教室
01	教室 保健室 学生相談室 事務室
B1	建築学科 機械工学科
B2	土木工学科 建築学科 まちづくり工学科
B3	機械室

## 工化会会長あいさつ

工化会会長 太田延幸

(昭和 54 年卒)



工化会会長の太田でございます。工化会会員の皆様におかれましては、いつも校友会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は、物質応用化学科（旧工業化学科）創設 80 周年を迎え、記念事業を展開してまいりました。その一つとして、2018 年 6 月 23 日(土)に、千代田区九段下のホテルグランドパレスにて、滝戸俊夫名誉教授を記念会会長にお願いし、理工学部長の岡田章教授・理工学部事務局長三橋満様および理工学部校友会会長木田哲量様などの来賓 21 名と、工化会会員（卒業生）、教職員およびご協力頂いた現役学生などを含めて総勢 390 人のご参加を頂き、祝賀会を盛大に執り行うことが出来ました。祝賀会では、日本酒・和紙および紫外線硬化樹脂によるストラップなどの企画もあり、校友を深めて頂きながら楽しいひと時を過ごすことが出来たものと思われまます。また、東南アジア交流の一環として進めておりますミャンマー連邦共和国ヤンゴン工科大学（YTU）の Mar Lar Than 教授や、大先輩の昭和 28 年卒の福島敏郎様からのご挨拶も頂き、物質応用化学科の国際化や歴史の重さを感じることが出来ました。ご参加頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。

記念事業の二番目として、80 周年記念基金創設の為の募金があります。ご存知の方々も多いと思いますが、70 周年記念基金では、大学院物質応用化学専攻・物質応用化学科及び短期大学部生命・物質化学科の学生に対して毎年学生支援を行っており、総勢 160 名を超える学生に対して学業意欲の向上等を目的として奨学金を授与して参りました。そこで、80 周年記念事業でも同様な記念基金を設けて、多くの学生を支援するため募金を行ってきました。皆様のご協力で総額 700 万円を超える募金が集まりました。今後 10 年間に渡り、学生が学業に励み、社会で活躍できる人材輩出の一助として活用させて頂く計画で準備を進めております。

記念事業の三番目として記念誌の発刊に関しまして、当初

の予定より大きく遅れておりますが『物質応用化学科 80 周年記念誌』として発刊する予定です。次回の総会前にはお手元に届く予定でございますので、楽しみにお待ちしております。

平成 30 年度の工化会総会は、通年 5 月開催のところ 80 周年記念祝賀会が開催された関係で 9 月 8 日に変更して開催されました。また、開催会場も通年では駿河台校舎でしたが、日本大学理工学部科学技術史料センター (CST ミュージアム) の第 15 回特別展日大理工のちから XI として物質応用化学科「化学の眼で見たら日常は異世界だった。」の展示もご見学頂くため、船橋校舎 13 号館にて開催しました。総会では事業及び予算についての前年度の結果及び本年度の計画について報告され、原案通りご承認いただきました。ご出席頂きました 64 名の会員方々の中には船橋校舎を初めて訪問される方もおられ、船橋校舎を訪ねる良い機会になり、また、CST ミュージアムを見学することができました。私は四十数年前に船橋校舎(当時は習志野校舎と呼んでいたと思います)に通学していたのですが、その頃は 9 号館までしかなく、新しい校舎や CST ミュージアムを初めて訪問させて頂き、大変興味深く、また懐かしく訪問・見学させていただく事が出来ました。平成 31 年度は、今までと同じく 5 月に駿河台校舎で開催する予定でございますので、ご都合を合わせてご出席願いたいと存じます。

東南アジア国際交流の一環として、YTU との交流は、創設 80 周年記念祝賀会にも Mar Lar Than 教授にご参加頂きましたことに加え、前年と同様に平成 30 年 12 月 8 日から 9 日に YTU で開催された第 9 回理工学国際会議に、5 年連続で物質応用化学科の教員 7 名に加え大学院生 3 名がミャンマーに渡航し国際会議で発表を行いました。学生にとっては国際会議での発表経験は社会人になった時に必ず役に立つと思います。また、今回は小嶋芳行学科主任も一緒に渡航され、YTU との連携についても関係を深めて頂きました。両校の間では、共同研究の開始に向けての打ち合わせも行われ、今後益々交流が活発になるものと思われま。工化会としては、今後の動向を見つめて行きたいと思ひます。

最後になりますが、2019 年には日本大学創立 130 周年を、理工学部では 2020 年に創設 100 周年を迎えます。我々工化会会員として日本大学の卒業生であることを誇りにし、益々厳しさが増す社会を邁進するよう努力していきたいと思ひますので、会員皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

## 平成30年度就職状況



応化進路指導委員会  
委員長 清水 繁

平成30年度も売り手市場感が強い年度となり、現時点での内定状況は学部・大学院ともに97%となっております。内定先の業種は、主に製造業で学部では35%、大学院では80%となっています。

また、学部では近年進学率も高く、30%程となっています。これは、化学を極めることと同時に、その後の進路として製造業の研究開発への就職を考えているためだろうと推測できます。

本年度の進路指導委員会は、7月に就職活動中の4年生を対象にミニ合同説明会を開催しました。参加企業は5社でした。

9月の後期ガイダンス時には、2年生にインターンシップについての話をマイナビの方に話して頂きました。近年、インターンシップの経験が就職活動に大きな影響を与えることから、その重要性が年々高まっています。理系学生が長期のインターンシップに参加ができるのは3年生の夏休みなので、早いうちから状況を知っておいてもらおうというのが開催の趣旨となります。3年生には、就職活動の概要についての話をしました。年末から、水面下を含め、活動が本格化することを知ってもらうと同時に、いかに効率的に就職活動を行えば良いかを知ってもらうためです。

10月から11月にかけて、3年生とM1の学生を対象に、業界セミナーを開催しました。ほぼ毎週、合計9回開催し、参加いただいた企業は18社となりました。これは、理系学生が就職活動の候補とする業界の企業の方に、業界についての話をしていただき学生の視野を広げる目的で開催しました。

12月には、第5回「夢実現プロジェクト」を開催しました。本年度は、過去最高の46社のご参加を頂きました。参加学生数も200名を越え、会場となったCSTホールは超満員となりました。1部では企業の人事の方と就職活動の一般的な

事項について議論し、2部では興味のある企業ブースでの説明会といった形式です。3年生にとっては、企業の方と話す経験はほとんどありませんので、まず1部で度胸を付けた上で、2部の企業ブースで積極的に質問してもらおうというもくろみです。3月からの本格的な就職活動を積極的に行うためにも良い経験になることだろうと期待しております。ちなみに、この「夢実現プロジェクト」も年々成果が上がっておりまして、本年度、昨年の第4回にご参加頂いた企業に、内定者が20社22名出ております。

このほか、各教員と個人的につながりのある企業が説明会を教室で開催しております。この説明会で興味をもった学生が、その後エントリーし内定を勝ち得た事例も複数あります。

就職活動解禁直前となる2月には、学部の就職指導課主催の学内セミナーが開催されます。参加企業数は、かなり多く、このセミナーで弾みを付けて本番の就職活動に向かいます。

既に次年度の就職活動が始まっています。内定率100%を目指し進路指導委員会は活動を続けます。

最後に、卒業生の方々のご支援も頂けることを願っています。



下写真：7月開催  
ミニ合同説明会



上写真：12月開催  
夢実現プロジェクト



多目的燃料添加剤の製造・販売

**有限会社深澤化学研究所**

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤豊史



## 学科創設 80 周年記念祝賀会報告

祝賀会実行委員長 深津 誠



物質応用化学科（工業化学科）創設80周年記念祝賀会を平成30年6月23日（土）に東京九段下にあるホテルグランドパレスのダイヤモンドルームにて、理工学部長の岡田章先生、理工学部事務局長の三橋満様をはじめとする各学科主任などの皆様にご臨席いただき、午後3時より開催いたしました。工化会会員の皆様には多大なるご協力をいただき、まことにありがとうございました。工化時報の誌面をお借りして開催の経緯について簡単にご報告させていただきます。

滝戸俊夫名誉教授を会長とする学科創設80周年記念会の発足当初から祝賀会を開くことが計画されておりました。前回の創設70周年祝賀会の経験を踏まえての検討がなされました。創設70周年祝賀会は本学本部の近くのアルカディア市ヶ谷で開催されたことはご存知の方も多いと思います。その時は会場が若干手狭であり、その後の10年間の卒業生もいることから、今回は600名までは余裕をもって開催できる会場を探すことから準備が始まりました。600名に対応可能な会場は都内にもそれほどなく、結局ホテルグランドパレスのダイヤモンドルームが選ばれました。結果的には参加者はご来賓も含め340名ほどでしたが、当日はテーブル席を用意するなどの会場レイアウトとし、それほど広すぎるということにはなかったように思われます。祝賀会実行委員会による開催後の分析では、70周年の前に祝賀会を行なった50周年祝賀会からの20年間に比べて間隔が半分であったこと、40歳代の参加者が予想よりかなり少なかったことなどが理由として挙げられています。その結果、当初計画していた費用がかさむイベントを取りやめたり、記念品なども経費が少なくすむような工夫をせざるを得ず、ご参加の方々には大変申し訳ないと反省しております。

祝賀会は滝戸会長の開会のことばに続き、太田延幸工化会会長、小嶋芳行物質応用化学科教室主任の挨拶があり、続いて理工学部長の岡田章先生、理工学部校友会会長の木田哲量様、ヤンゴン工科大学工業化学科長のMar Lar Than先生からご祝辞をいただいた後、ご出席者最高齢の昭和28年卒業の福島敏郎様をご紹介させていただきました。そして、古橋雄二工化会前会長の音頭による乾杯で祝宴となりました。会場では校友が営む千代の亀酒造株式会社の利き

酒と株式会社五十崎社中手すき和紙の展示が行われました。学科からは在学生スタッフの準備によって、紫外線硬化樹脂を使った80周年記念ロゴをあしらったキーホルダやマグネットのコーナーを設けました。実際に参加者に作成をしていただき、出来上がったものをお持ち帰りいただきました。

祝賀会もたけなわとなったところで、安達昭郎元会長の工化会にたいする長年の御貢献に対し感謝状を贈呈し、お言葉をいただきました。また活躍する在学生として、トランポリン競技で世界的に活躍している物質応用化学科3年生の桐生莉沙さんが紹介されました。最後には全員で「若きエンジニア」を斉唱してから、栗原清文記念会実行委員長による閉会のことばでお開きとなりました。



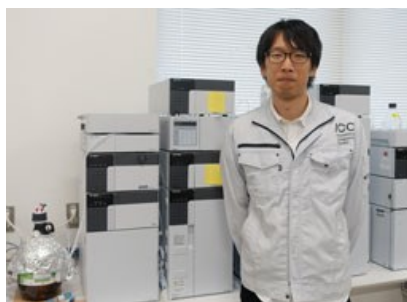
## 創設80周年記念誌発刊遅延のお詫び

記念誌編集委員長 遠山 岳史

当初の予定では年内に皆様方のお手元に届く予定の記念誌ですが、現在のところまだ発刊できていない状況であることをお詫び申し上げます。経費削減などの理由により紙面の構成を一からやり直している関係上、今現在も編集を続けている最中であります。3月末を目処に編集を完了し、5月の総会までにはお手元に届くよう務めてまいりますので、今しばらくお待ちいただきますようご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

## 工化会賞受賞者の声

### 平成30年 70周年記念賞若手研究者支援受賞者



山下 博  
(平成30年 博士後期課程修了)  
有機材料化学研究室卒

私は2018年3月に博士号を取得し、現在は金沢工業大学革新複合材料研究開発センター (ICC) で研究員 (ポスドク) として勤務しています。ICC では、炭素繊維複合材料に関して、樹脂の開発から社会実装に向けた製造方法の開発と、幅広い研究を行っています。その中で私は、炭素繊維と樹脂の界面接着性の評価や界面接着性を向上させる相溶化剤の開発を行っています。また、産学官連携に力を入れていることもあり、様々な分野の企業や大学との共同研究にも携わっています。ICC では、モノマーの合成といった化学的な知見を活かすだけでなく、押出成形機や大型の成形装置などに触れる機会もあり、これまでに触れてこなかった工学的な分野の知識を得る機会があり、とても勉強になります。様々な分野の経験を吸収し、化学と工学の両方の知見を持ったゼネラリストな研究者を目指し、これからも研究に励みたいと思います。

### 平成30年 70周年記念賞奨学生支援受賞者

超分子化学研究室所属 金井 大介  
(平成30年 物質応用化学科卒)

現在、私は第二の生体の窓で駆動する新規 Mie 共鳴応答型光熱治療ナノ結晶の開発というテーマで研究を行っています。大学院に進学し、研究に打ち込むことができるのも、工化会の皆様からのご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。これからも研究、勉学に励むとともに、社会に貢献できるよう、日々精進してまいります。最後に、工化会の皆様が今後も大学院に進学する学生への御支援を続けてくださることを願っております。

有機材料化学研究室所属 竹内 友汰  
(平成30年 物質応用化学科卒)

現在、私は正電荷と形状記憶性を有するポリカプロラクトンナノ粒子の調製と応用というテーマで研究を行っています。



ます。大学院に進学し、このように研究に打ち込むことができるのも、工化会の皆様からの御支援、また様々な方のおかげであり、心から感謝申し上げます。今後も研究だけでなく勉学に取り組むことで社会に貢献できるように日々精進していきたいと思っております。また、工化会の皆様が今後も大学院に進学をする学生への御支援を続けてくださることを心より願っております。

### 平成30年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生・OB の学会賞の受賞等の活躍をご紹介します。(集計期間：平成30年2月～平成31年1月)

#### 【教員の部】

- ・大月 穰 (超分子) Asia Pacific Society for Materials Research
- ・大月 穰 (超分子) Publons Peer Review Awards 2018
- ・小嶋芳行 (無機) (一社)色材協会 優秀講演賞
- ・遠山岳史 (無分) 4<sup>th</sup> International Conference on Science, Engineering and Environment (SEE), Best Paper Award
- ・松田弘幸 (化工) 化学工学会 2018 年度部会活動功労賞 (部会 CT 賞)

#### 【学生の部】

- ・丁 登培 (化工) 8<sup>th</sup> International Symposium on Molecular Thermodynamics and Molecular Simulation (MTMS '18) Student Poster Presentation Award
- ・白石紘規 (無材) The International Symposium on Inorganic and Environmental Materials 2018, Poster prize
- ・今井隆太郎 (無分) 日本分析化学会有機微量分析研究懇談会 計測自動制御学会力学量計測部会第35回合同シンポジウム, ベストポスタープレゼンテーション賞
- ・新坂周平 (化工) 平成 29 年度廃棄物資源循環学会関東支部講演会・研究発表会, 研究発表会優秀ポスター賞
- ・寺坂竜海 (無分) 第 35 回イオンクロマトグラフィー討論会, 学生ベストポスタープレゼンテーション賞
- ・田代憲史郎 (有合) 理工学部学術講演会、優秀口頭発表賞
- ・坂上亜樹 (化工) 理工学部学術講演会、優秀ポスター発表賞

## クラス会・同窓会の報告

### 第 2 回高分子合成研究室同窓会開催報告

2018 年 12 月 8 日(土)17 時より理工学部 1 号館食堂にて同窓会が開催されました。同窓会の前身である高分子合成研究室同友会の時から毎年 11 月開催でした。今年は例年と異なる開催日でありましたが、会員 44 名が参加し盛況でした。高分子合成研究室同窓会は、毎年 11 月第 1 土曜日に開催を予定しています。第 3 回高分子合成研究室同窓会は、2019 年 11 月 2 日(土)大学食堂等で開催を予定しています。卒業生皆様のご参加をお待ちしております。



(同窓会役員：新国貞幸会長、片桐正志副会長、工藤慎平幹事長、高間幸夫及び大室泰典会計、丸野晋平監査)

### 有機合成化学同窓会「第 3 回総会」開催報告

有機合成化学同窓会は従来の 3 つの同窓会を統合して発足し(詳細は工化時報第 32 号参照)、昭和 27 年 3 月卒業生を 1 期とし、平成 31 年 3 月卒業生を 67 期としていて、去る平成 30 年 10 月 27 日(土)、理工学部駿河台校舎 1 号館カフェテリアにおいて、第 3 回総会を開催しました。

当日は大内秋比古先生、滝戸俊夫先生、大月穰先生をはじめ、太田延幸会長を筆頭に 60 名余りの OB 諸氏が参加しました。総会に先立って、エクスカージョンとして「タワー・スコラ」の見学も行なわれ、旧知との温故知新とともに理工



学部の最新情報にも触れることができました。

総会では、統合後の同窓会を先頭に立って牽引された太田会長が勇退され、新たに小栢幸夫会長、久保田博明副会長、青山忠会計、能勢いずみ会計監査の基に同窓会の運営を引き継ぐこと、常任幹事として、勝又雅子さん、佐藤健次さん、能勢いずみさん、亀田博之さんの就任が満場一致で採択されました。

## 工化35クラス生誕80年代突入へ！！

平成最後のクラス会を11月8日に開き15名の参加があった。この機会に多くの仲間に連絡をとって友好をはかったが必ずしも多くの出席者を迎えることに繋がらなかった。工業化学科創設80周年を迎えたこと、アメフトの不祥事などの報告もあったが、話題の中心はやはり仲間同士の近況にあった。クラス会の開催もそろそろ今回で終わりかなと思ってところ、全員からまだまだと毎年の開催を求められた。幹事が生存中はやらねばと思わされた次第。今回は昼間にイタリアンでしゃれた料理にワインと楽しく歓談し、老境に入っただけの一日であった。次回は2019年11月上旬を予定 — 来たれ同輩 —。



(幹事 安達)

## 昭和41年3月卒業生より工化会への寄付

旧工業化学科昭和41年3月卒業(1部)の同期会が昭和63年4月に開催され、その時の剰余金62,470円が代表幹事の真下清氏から平成30年12月7日工化会に寄付されました。

本学元教授 磯崎昭徳 先生におかれましては、平成30年8月3日にご逝去されました(享年78歳)。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

## ミャンマーとの国際交流の現状

平成 27 年度より工化会のご支援を受けて始まったミャンマーとの国際交流会は、4 年目に入り 30 年度も様々な活動を行うことが出来ました。本年度は物質応用化学科創設 80 周年記念祝賀会が開催され、ヤンゴン工科大学 (YTU) 工業化学科長 Prof. Dr. Mar Lar Than 先生に、ご祝辞をいただきました。この滞在では祝賀会のほかに、駿河台校舎二号館内に併設されている材料創造研究センターを利用して先生持参サンプルの SEM 測定を行いました。翌日には船橋校舎を訪れ、化学系教員との研究打ち合わせや先端材料科学センターの見学などをし、学科間および学部間の連携に向けた具体的な協力体制の準備をしました。12 月 8・9 日に YTU で開催された国際学会 ICSE2018 への大学院生の派遣を行い、博士前期課程に在学する古畑晋 (M1) 君と稲垣彩夏 (M2) さんの 2 名が発表しました。発表前は緊張の面持ちを見せた二人でしたが堂々と発表し、ミャンマーの文化や人々に触れ、普段の生活では得難い経験をし、帰国しました。平成 31 年 1 月には、YTU の所用で来日されていた Prof. Dr. Mar Lar Than、Prof. Tin Aye Khaing および Prof. War War 先生より連絡があり、先方のスケジュールの合間を縫って夕食会が実現しました。次年度以降の具体的な共同研究なども視野に入れ、今後、学部を通してさらなる交流を諮ってまいります。

(赤澤寛行)



PVC・合成樹脂 コンパウンドメーカー



昭和化成工業株式会社

〒348-0038 埼玉県羽生市小松台 1-603-29

TEL 048-561-5221

高い技術力とノウハウが業界トップシェアを支えています。

昭和 53 年度卒 代表取締役社長 池本 俊一



日本大学理工学部科学技術史料センター  
 第15回特別展  
 「日大理工のちから XI」物質応用化学科  
 化学の眼でみたら日常は異世界だった。

理工学部科学技術史料センター専門委員会委員 谷川 実

2004年に開設した日本大学理工学部科学技術史料センター(CST MUSEUM)は、理工学部内外に所在する本学部関係者がかかわる史資料の収集、保管、展示ならびに調査・研究を行い、併せて教職員、学生および一般の利用に供することを目的としています。第15回特別展は物質応用化学科の担当となり、2018年7月26日(木)から2019年6月27日(木)の期間に開催されています。9月8日に船橋校舎で開催された工化会総会に先立ち、見学された方もいらっしゃるかと思います。展示内容は、私たちの身の回りに存在し、人々の暮らしを豊かにしている化学物質やその技術に焦点をあてた展示となっています。物質応用化学科で所蔵する、目には見えない化学物質を見るための様々な機械装置や化学実験に用いる器具を展示し、最新の研究を紹介しています。また、化学の面白さを幅広い年齢の方に知っていただくために特別展初めての試みとして、年間5回にわたりましてワークショップを開催しています。対象は小学生で現在までに4回開催されており「自然界に学ぶ“色”を作ろう」「変幻自在なプラスチック樹脂の不思議」「まぜて～のぼして～光るスライムをつくろう」「光るキーホルダーを作ろう」という内容で多くの方に参加していただき、非常に好評でした。5月11日に第5回ワークショップの開催予定です。「ドライアイス化学実験 Show」というタイトルで遠山岳史教授が小学生の前でドライアイスを使った化学実験ショーを行います。詳細は <http://www.museum.cst.nihon-u.ac.jp/> をご覧ください。



## 新任紹介

環境微生物学研究室  
助手 小池 美弥



はじめまして、平成29年4月より物質応用化学科の助手に着任致しました小池と申します。平成23年度に理工学部に入學し、平成28年度の修士課程修了まで6年間、物質応用化学科の諸先生方には大変お世話になりました。在學中から現在まで環境微生物学研究室に所属し、微生物が持つ、環境中にごく微量存在する物質を分解する酵素タンパク質の諸性質解明等の研究を行っております。平成29年度より本学科にて学生実験及び4年生の卒業研究指導を担当させて頂いておりますこと、本学科にて化学教育に携わる機会を頂きまして感謝申し上げます。助手に着任してから2年が経とうとしておりますが、研究や学生実験を通して先生方や学生からは学ぶことばかりの毎日です。日本大学 理工学部 物質応用化学科の一員として一生懸命勉強させていただきますので、工化会会員の皆様にはご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 新任紹介

物質生命化学研究室  
助手 中村 亜紀



平成30年4月より物質応用化学科の助手に着任致しました中村亜紀と申します。私は神戸薬科大学を卒業後、母校の副手として着任し、その後助手、助教として教育と研究に従事しておりました。研究活動では私たちの身の回りで役立つモノづくりをモットーに、無機層状化合物を用いた新規機能性材料の合成や評価を行ってまいりました。現在は専門化学実験を担当し、真摯に取り組む学生たちに刺激を受けると同時に、私自身も学ぶことの多い毎日を送っております。伝統ある物質応用化学科でこのように再び教育に関わることができましたことに心から感謝いたしております。これまでの経験を生かしながら、物質応用化学科での教育に貢献できるよう努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

## 退職のごあいさつ

短大生命・物質化学科  
高田 昌子  
(平成6年博士後期課程修了)



平成21年4月に短期大学部応用化学科に奉職し、平成31年3月末に生命・物質化学科を退職致します。在職10年間で短期大学部は学科名・定員の変更があり、平成31年度入学生からは学科組織の変更があるという状況ですが、これまでは学科定員が少ないため学生1人1人と向き合うことができる恵まれた環境で教育に携わることができ、大変幸せに感じております。

日本大学とのご縁は、他大学の家政学部食物学科を卒業し化学実験の助手だったときに日本大学大学院理工学研究科で社会人入試があると新聞広告で知ったことに始まります。X線小角散乱に興味があると問い合わせをし、栗田公夫先生に受け入れていただきました。平成元年4月博士前期課程工業化学専攻に入学し、平成6年3月に学位を取得するまで高分子工学研究室で栗田公夫先生、和田英一先生、岡野光治先生(東京大学)にご指導いただきました。研究に導いて下さった日本大学に感謝しております。学位取得後は専任教員として教育と研究に励みたいと考えましたが、なかなか希望はかなわず、いくつかの大学で非常勤講師を続け、平成12年4月からは理工学部で非常勤講師として食品科学を担当し教育中心の生活を送りました。専任教員は諦め、教育に携わることができる環境を大切にしながら生活していこうと考え始めた頃、短期大学部から声をかけていただき応募致しました。助教として採用が決まったときは、夢が叶いとても嬉しかったです。

夢は追いつけると必ず叶うものだと申しますが、多くの方々に支えていただき仕事を続ける中で幸運にも教育と研究ができる場を与えていただけたことを感謝しております。清水繁先生、伊掛浩輝先生が共同研究を行う機会を与えて下さいましたので、研究を継続することができました。

平成の30年間は研究に導いていただき、教育に携わることができ、とても幸せな時間でした。これまでご指導、ご支援、ご協力くださいました皆さま、ありがとうございました。

## 平成 30 年度工化会事業報告

平成 30 年度工化会通常総会は、船橋校舎 13 号館 1325 教室にて平成 30 年 9 月 8 日(土)15 時より、役員・会員 742 名(内委任状 678 名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務、会計、会員、会報の各委員会の平成 29 年度事業報告案および会計報告案、ならびに平成 30 年度事業計画案および会計予算案、永島一男工化会役員の理工学部校友会個人表彰への推薦案、役員改選案、物質応用化学科創設 80 周年記念会収支決算案の審議を行い、これらを承認しました。また、学科創設 70 周年記念基金学生支援事業の奨学金が 2 名に授与されました。総会後は船橋校舎ファラデーホールで懇親会が開催され、太田延幸会長の挨拶、物質応用化学科教室主任の小嶋先生より現況報告があり、ホームカミングデーとして招待された還暦を迎える卒業生に記念品を贈呈致しました。総会前には、物質応用化学科が特別展の展示を行っている CST ミュージアムにご案内致しました。

本年度の事業計画としては、役員会・通常総会の開催、付属高校生のための CST オープンカレッジ 2018、駿河台入試フォーラム 2018、平成 30 年度日本大学理工学部一日体験化学教室、CST オープンキャンパス 2018、短大ものづくり&サイエンススクール 2018、第 5 回物質応用化学科夢実現プロジェクト、第 12 回合格者相談会、平成 30 年度物質応用化学専攻・同学科ならびに短大生命・物質化学科合同の学位記伝達式、物質応用化学科・工化会共催「ミャンマー国際交流」の 9 つの事業に対する後援、工化会賞の授与、工化会主催の講演会の開催、工化時報の発行・発送が承認されました。

さて工化会賞は卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した学生を工化会として表彰するものですが、本年度も厳正な選考を行い、受賞者合計 51 名には、3 月 25 日(土)に開催した大学院・学部・短大合同の学位記伝達式の際に賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。なお本学科の創設 70 記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象で当該年度の学位修得者)、奨学生支援(学部の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業生の中で高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた学生が対象)については、若手研究者支援は該当者なし、奨学生支援は 2 名、奨励賞については学部 28 名、短大 12 名、合計 40 名に対して支援・授与が行われました。

最後に平成 30 年度の工化会予算についてですが、本会では予算を經常会計予算と特別会計予算の 2 種類を編成しており、平成 30 年度經常会計予算は総額 728.4 万円で、その内



訳は学生支援事業費が15.0万円、各種講演会・行事支援事業費として214.1万円、卒業生支援事業費は295.1万円、その他132.0万円、次年度繰越金が72.2万円であり、特別会計予算は総額1297.5万円で、内訳は卒業生支援事業費に260.1万円、会費・寄付金郵便振替対応業務として3.6万円、国際交流支援に40.0万円、次年度繰越金として993.8万円計上しています。なお平成30年度の会員諸氏による会費の納入状況は、本号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

最後に、平成30年度の工化会主催行事ならびに後援事業の概要を以下に報告します。

① 4月21日(土)15:00~18:00

役員会：役員61名出席（内委任状22名）。

② 6月10日(日)

CSTオープンカレッジ2018：付属高校生141名が来場。

③ 6月25日(月)11:00~

物質応用化学科・工化会共催「ミャンマー国際交流」講演会  
講師：Prof. Dr. Mar Lar Than (Yangon Technological University)  
演題：Scope of research and employment of Chemistry field student in YTU

教職員・学生対象に開催。

④ 7月15日(日)

駿河台入試フォーラム2018：高校生219名が来場。

⑤ 7月28日(土)

平成30年度日本大学理工学部一日体験化学教室（台風のため中止）。

⑥ 8月4日(土), 5日(日)

CSTオープンキャンパス2018：高校生615名が来場。

⑦ 9月8日(土)

15:00~16:30 通常総会：742名出席（内委任状678名）。

⑧ 11月3日(金)

短大ものづくり&サイエンススクール2018：地域の方のべ131名が参加。

⑨ 12月8日(土), 9日(日)

ICSE2018(会場：ヤンゴン工科大学)に大学院生2名を派遣。

⑩ 12月14日(土)

第5回夢実現プロジェクト：企業46社、学生188名が参加。  
詳細は進路指導委員会からの就職状況報告を御覧ください。

⑪ 2月24日(日), 27日(水)

第12回合格者相談会：24日(日)：10組22名、27日(水)：14組21名、両日で24組43名が参加。

⑫ 3月25日(月)

平成30年度物質応用化学専攻・同学科ならびに生命・物質化学科学位記伝達式。

以上 庶務委員会

# 会費,寄付金納入者名簿 (平成31年1月9日現在)

昭和16年卒	和田守 哲治	渡辺 文夫	松浦 豊紀	小林 昭朗	横田 力男
天野 章	萩野 堯	山谷 保二	駒井 俊雄	青木 匡	香山 武夫
櫻村 正久	高橋 久雄	横川 徹也	清水 大三	北村 隆	小原 英雄
昭和19年卒	浅川 和昭	栗原 孝夫	芝田 研爾	庄司 翠	鈴木 良治
脇 幹夫	昭和30年卒	昆野 澄夫	杉崎 秀夫	塚田 政弘	田中 誠悦
日暮 忠弘	綾野 怜	昭和35年卒	塚田 政弘	富田 允雄	高松 武生
昭和20年卒	金井 孝道	安達 昭郎	富田 允雄	本田 睦治	富士 光男
渋谷 洋平	古川 新	青木 弘	丸林 功	石岡 龍右	寺山 洋子
杉浦 銀蔵	植竹 和也	安藤 成昭	石岡 龍右	昭和40年卒	稲葉 清彦
昭和21年卒	近藤 練太郎	石川 好隆	磯崎 昭徳	上田 輝世	上野 公雄
石川 幸一	昭和31年卒	内田 穆堂	神保 進	牛山 憲次	沖本 武且
斉藤 光平	川口 國雄	笠井 啓也	長田 守一	佐藤 瑞雄	土田 純一
昭和22年卒	小松原 彬	黒木 妙子	長友 良久	飯野 宏治	高橋 志郎
大川 襄治	高木 弦	河合 哲次	植木 庄左衛門	武井 秀彦	高間 伸一
昭和23年卒	高橋 一正	小林 隆夫	井野 二陸	高間 伸一	丹野 隆善
伊東 達郎	本山 方史	定方 聰博	井野 二陸	西脇 鉄雄	西脇 鉄雄
伊藤 讓	安田 隆	塩澤 進	井野 二陸	幡野 匡彦	三谷 治郎
昭和25年卒	川合 武夫	篠 大太郎	井野 二陸	清水 博太郎	飯原 打越
柿澤 正彦	鈴木 修	鈴木 修	稲垣 甫	山岡 景仁	有田 喜一
池田 富三	雁部 敬夫	高尾 俊行	大野 維夫	飯原 打越	山岡 景仁
榊田 雄三	田畑 調友	瀧澤 文男	大橋 隆	山岡 景仁	有田 喜一
西田 正雄	矢野 弘子	難波 純一	大村 俊晴	有田 喜一	中澤 豊
吉岡 典照	吉田 幸三	野島 秀次郎	木村 次雄	宮城 晃	宮城 晃
吉田 耕一	昭和32年卒	原 幹夫	久喜 徹	村井 直樹	木村 勲
昭和26年卒	阿久津 芳彦	町田 収	小松 洋	佐藤 栄祐	嶋田 晋廣
鈴木 信夫	網代 良太郎	谷田部 寛昭	栗田 公夫	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
稲垣 正	工藤 富司	渡邊 高章	鈴木 和夫	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
大田 精一	田中 昭男	倉形 邦英	竹内 栄多	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
垣内 宏	竹内 孟	須藤 隆司	永田 正巳	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
中野 博司	東海林 正	関口 勝	西山 孝彦	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
昭和27年卒	榊本 弘昭	高橋 健一	原田 文雄	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
植松 貢	永田 治義	丸山 長資	渡部 長幸	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
柏木 治彦	西田 金誉	宮本 實	原 章	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
外山 研次	藤岡 幸彦	島田 洋子	荒谷 作松	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
国分 兼一	宮川 了一	大石 昌弘	長嶋 潜	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
近藤 住吉	依田 惠市	村川 信子	白石 益郎	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
橋 敬治	齋木 稔	山本 成也	杉田 松生	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
井出 俊一	笹原 孝	昭和36年卒	藤野 裕	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
石田 宏	渋谷 六郎	石井 照明	南山 茂男	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
高田 芳行	村松 勉	宇賀治 正名	鈴木 忠	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
和井内 徹	清治 英子	小川 昌太郎	昭和39年卒	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
昭和28年卒	昭和33年卒	飯戸 斌	赤池 昭彦	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
佐藤 正巳	阿部 正明	木佐貫 秀彌	秋草 幸雄	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
村上 全司	青山 達也	木村 繁夫	秋本 幹夫	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
山口 猛	伊藤 明	黒尾 良康	石井 国昭	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
鈴木 一成	奥野 士郎	佐藤 進	石川 和正	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
田村 佐重	加賀 勘之助	斎藤 博	金田 純一	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
徳永 静	柏崎 敏郎	坂本 昌伍	神谷 中	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
福島 敏郎	久保田 景一	斯波 弘行	亀村 轟	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
堀 武	熊谷 祐一	鈴木 善治郎	渡辺 久和	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
松岡 高	小林 脩一	炭田 幸宏	児玉 義宏	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
吉川 和夫	才木 義夫	高柳 裕臣	佐藤 良博	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
上杉 哲	齋藤 二郎	村田 敏弘	斎藤 伸之	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
昭和29年卒	清水 巖	柳 弘来	斎藤 博之	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
石井 喜悦	滝淵 幸二	吉田 昌弘	斎藤 守園	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
井上 秀雄	箕浦 滋	渡辺 寿義	瀬尾 宏	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
小林 清人	宮森 隆志	佐藤 貞男	竹石 肇	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
周 永實	守屋 伊佐雄	砂川 憲二	武田 幸久	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
瀧谷 俊雄	広瀬 俊雄	野村 友次	奈良木 亨丞	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
谷川 清	昭和34年卒	中村 紀史	中田 博	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
寺島 昌訓	牛込 力夫	桔梗 隆	中林 実	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
長山 勝政	大久保 勝弘	小串 照宗	仲野 一次郎	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
峯岸 俊夫	小林 照弘	昭和37年卒	野口 文雄	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
八田 肇	櫻井 缸二	伊地知 龍清	原 襄輔	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
横田 一郎	玉置 憲三	伊藤 成利	堀 是治	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣
米山 廣保	藤森 信正	奥山 正之	田幡 安郎	嶋田 晋廣	嶋田 晋廣

海上 幸三	安岡 徹	阿部 哲夫	昭和59年卒	平成10年卒
北村 正孝	渡辺 明典	市之宮 重雄	清水 繁	島村 寛人
梅北 司	大高 由輝	黒澤 錬二	長島 敬明	荒井 滋人
佐藤 精二	川津 義人	昭和54年卒	小嶋 千津美	岩瀬 直子
進藤 宣詔	坂口 信昭	浅野 祥司	昭和60年卒	横田 昇平
昭和44年卒	藤井 克彦	榎本 充男	太島 佐知子	伊掛 浩輝
安藤 純一	矢田 智	小笠原 幸道	石見 勝洋	平成11年卒
石井 和夫	増村 正志	太田 延幸	加藤 晃	浅野 賢一
石山 利男	関口 優紀	大野 正博	村松 岳彦	樋口 孝夫
井上 隆	昭和49年卒	久保 俊一	矢澤 聡隆	平野 壮哉
今脇 秀雄	牛山 仁司	菅野 靖	小淵 洋子	平成12年卒
大橋 正宣	久保 隆	杉山 文敏	飯田 岳之	亀田 博之
桜井 浩平	小島 元昭	中村 真理子	昭和61年卒	平成13年卒
信濃 孝之	小林 正男	服部 洋一	片桐 正志	平山 参江
新藤 豊彦	小茂田 英男	藤生 康彦	小嶋 芳行	藤田 尚之
田中 敦	佐藤 憲一	目良 昌三	三原 公雄	平成14年卒
花井 秀之	澤口 孝志	山中 一典	昭和62年卒	小曾根 美美
八幡 順一	末木 康行	横森 英俊	加藤 慎次郎	角田 雄亮
横山 二郎	湯川 吉美	吉村 仁孝	幾留 孝司	安達 景子
小栗 勝治	武安 栄樹	坂本 恵一	清水 恵樹	吉川 賢治
小林 勉	館 徹	坂本 信子	昭和63年卒	平成15年卒
濱田 文雄	野澤 美文	昭和55年卒	石井 睦子	堀川 達哉
原 幸夫	野原 孝司	金子 堅司	乙川 千博	平成17年卒
鶴持 晃	元木 英二	黒瀬 健介	歳森 幹生	赤澤 寛行
昭和45年卒	山崎 純一	多田 康男	三井 宏	平成18年卒
小林 満	山中 光徳	戸塚 宏	村山 竜一	稲見 明香
篠崎 勝彦	田島 平良	森 弘通	中西 剛	平成19年卒
田中 碩	昭和50年卒	渡辺 正義	中道 幹芳	伊藤 拓哉
滝戸 俊夫	上田 賢二	木村 昌広	森田 孝節	木下 裕彦
土田 久	汐澤 日出夫	波岡 宣彦	平成元年卒	平成20年卒
永島 一男	関 孝光	昭和56年卒	磯崎 誠也	松岡 祥江
永田 勝彦	野原 正男	池田 実	木方 真理子	小出 優一郎
服部 正隆	服部 信和	奥田 直史	黒田 美和子	平成21年卒
平塚 良一	中野 功	河野 恭輔	小池 英雄	吉田 隼人
宮内 和司	関口 真理	今野 直哉	栗田 雅子	平成23年卒
宮川 晃一	牛込 淳彦	後藤 真一	相原 孝志	太田 直裕
望月 昭宏	長井 一良	熊谷 一弘	平成2年卒	春日 龍史
森川 美次	大川 由明	植松 烈平	石川 恵子	平成24年卒
森崎 正美	昭和51年卒	大沼 明	荒川 一郎	工藤 慎平
佐藤 宗衛	荒沢 康夫	三橋 昭男	平成3年卒	田嶋 研吾
瀬戸 博	井之上 佳三	有川 俊一	川野辺 晃生	平戸 祐喜
寺田 高德	内野 好夫	木屋 幸蔵	永田 晶義	平成25年卒
昭和46年卒	重盛 正男	昭和57年卒	高田 昌子	近藤 駿平
岩間 幸雄	鈴木 博	江田 久雄	平成4年卒	関口 敏樹
大木 雅夫	馬場 務	田島 みゆき	宮崎 裕子	田村 高大
川島 英郎	塚本 正雄	井上 みどり	桐山 崇一	早川 麻美子
木村 二郎	前田 勉	小暮 勝彦	林 由浩	松山 史典
小谷 将彦	佐野 勝栄	小柳 幸夫	松田 和夫	曾村 岳郁
齋藤 政久	昭和52年卒	中村 宏昭	萩原 洋子	平成26年卒
鈴木 重衛	栗村 嘉明	中村 明裕	平成5年卒	野中 裕名
吉広 邦夫	佐藤 祐二	久松 美樹	岩淵 弘晃	桐谷 眞由
高橋 秀樹	荻原 謙二	三根 郁夫	小泉 公志郎	本城谷 拓
丹野 幸久	斉藤 孝	伊藤 和宏	米田 哲也	寺田 理恵子
牧原 信太郎	酒井 久男	梅田 栄一	平成6年卒	平成27年卒
三宅 久利	志田 邦昭	内田 陽子	小池 芳暁	田中 里奈
八木 信雄	深澤 豊史	桑折 敬子	石黒 香織	藤谷 昌弘
三瓶 辰一	古橋 雄二	山浦 信介	砂沢 周一	齋藤 雅史
飯田 隆	前川 幸生	佐藤 慎一	遠山 岳史	杉浦 裕昌
冬室 誠	山田 忠雄	昭和58年卒	平成7年卒	井上 悦宏
昭和47年卒	関口 晴久	岩崎 好高	岡田 賢識	平成28年卒
駒屋 伸雄	堀内 晴夫	飯田 隆久	谷合 哲行	福田 寛之
齊藤 菊夫	新国 貞幸	栗原 清文	奥村 佳代子	山口 健吾
丹呉 秀博	昭和53年卒	田村 精一	平成8年卒	教職員
何木 正芳	伊藤 俊広	高山 利治	湯浅 貴之	青山 忠
藤木 孝人	五十嵐 博	長 茂輝	仁平 勉	西村 克史
森 伸一	植松 一郎	谷田貝 仁恵	原野 満実子	櫛 泰典
飯倉 登美雄	勝亦 章行	中山 佳則	加藤 太志	鈴木 佑典
昭和48年卒	小林 康秀	原川 優子	平成9年卒	大内 秋比古
重藤 峻一	高木 英行	矢島 浩之	浮谷 基彦	大月 穰
渋谷 修	原田 茂	山田 美穂子	木田 秀一	西宮 伸幸
戸早 哲太郎	原田 哲也	久保田 博明	谷川 実	
長谷川 一夫	深津 誠	立岩 洋	林 秀憲	
平林 明夫	渡辺 寿悦			以上 608名

## 編集後記

「あら探しよりも、宝探し。」これは中越地震で被災した山古志村から、北海道胆振東部地震の厚真町へと引き継がれている言葉だといいます。町の足りない点を数えるより、よい点を探してそれを復興に繋げていこう、ということです。これは、私たち教育に携わるものも肝に命じておかなければならない言葉です。私たちは、ともすると学生の欠点にばかり目がいってしまいがちですが、それよりも彼らのいいところを見つけて、それを伸ばすように手助けをする、それが大切なのでしょう。

もうすぐ4月になると今年も新入生が入学してきます。卒業までに彼らはどれだけ成長するのでしょうか。少しでもその手助けができればと思っています。

(工化時報編集委員 昭和61年卒 萩原 俊紀)

## お知らせ

### 平成31年度の行事予定

5/25(土) 工化会総会 午後(場所未定)

7/27(土) 一日体験化学教室

8/3(土)、8/4(日) CST オープンキャンパス2019

10/13(日) 理工学部ホームカミングデー(駿河台校舎)

11/3(日) 短大ものづくり&サイエンス・スクール2019

### 連絡先

- ・住所変更に関する問合せ→会員(深津 TEL:03-3259-0805)
- ・会費に関する問合せ→会計(清水 TEL:03-3259-0803)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(西村 TEL:03-3259-0824, FAX:03-3293-7572, E-mail: jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp)
- ・上記以外の問合せ→庶務(栗原 TEL:03-3259-0822)

### 広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲載料 1件 : 10,000円

### 発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8  
日本大学理工学部工化会会報委員会

西村克史, 赤澤寛行, 谷川 実, 遠山岳史, 永島一男, 萩原俊紀, 米田哲也

学生編集委員

4年: 松本健太郎, 山村彩乃, 渡邊志龍, 3年: 糟谷紗希, 菊地 晶

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>